

「サイレントキーボード」

鍵盤と同じ凹凸に指を構えて、しかも音が出ないことで
“脳と指との連携開発”に最適！

楽譜を見て直ぐにピアノで音を出すのではなく、楽譜の内容について考え分析しよう。

【音】を想像する楽しさから 豊かな音楽表現へ。

音が鳴らないがゆえに効率よくそれらの活動ができて、脳を発達させるグッズ

触覚による全調の開発として

【使い方】

- * 5音スケールのポジション・テトラコード・和音・音程の触覚の確立にメンタルジム、分析、ドリル時に使う

【目的や留意点】

- * 音階の5音のかまえや、和音のかまえについて、鍵盤の上にどの様に指が置かれているかを手全体の形や指先の感触としてわからせる。
- * 「頭」でイメージし、「指」を整えてから音を出す習慣をつける。

【効果】… 心理と育脳の側面から

- * 音が出ないことで音を想像でき、また、より触覚に集中できる。
- * 間違った音を聴かない事でダメージもなく、耳をニュートラルな状態にしておける。
- * 間違った音が出ないのでピアノに抵抗を持つ生徒も気軽に鍵盤に親しみ、触覚が育つことで次第にピアノでも指をかまえられる。

分析・初見奏

… ペース博士曰く「初見分析の鉄則は音を出さないこと」

- * 初見奏の前に机上で分析し、指番号を決めたり腕の使い方を考えたり、音を出さずによく準備し、音楽のイメージができてから音に出す。
- * 和声進行やそれとメロディーの関係を、音を頭の中で想像しながら分析する。